

令和7年度全日本私立幼稚園連合会 中国地区私立幼稚園教育研修会広島大会
子どもが創る「未来」～命と平和を守る被爆80年のヒロシマから～

記念講演 「平和への祈りを舞踊に込めて 今思うこと」

講師 松山バレエ団 理事長・団長 プリマバレリーナ
森下 洋子 先生

<プロフィール>

広島県広島市出身

日本を代表する世界的バレリーナとして、幼少期よりバレエに取り組み、国内外で数々の舞台に立ち続けている。1974年にはヴァルナ国際バレエコンクールで金賞を受賞し、モナコ留学を経て、1976年「白鳥の湖」で文化庁芸術祭大賞を受賞。その卓越した技術と表現力は日本のみならず世界中で高く評価されている。



記念講演は、エリザベト音楽大学付属音楽園 合唱団「プリエ カンタンテス」の歌声で始まりました。演奏曲目は、「あおぎり」「ねがい」「とてもシャン！きもちシャン！」の3曲。ピアノ伴奏に合わせて、平和への思いがこもったこどもたちの歌声でした。

<講演内容>

○キャリアの始まり

森下洋子先生は、終戦3年後の広島市に生まれ育ちました。幼少期から体が弱く、医師に運動を勧められたことがきっかけで、3歳から自宅近くで開講されたバレエ教室に通い始めました。バレエに夢中になった森下先生は、3歳で「これをずっと続けたい」と感じ、その思いは74年経った今も変わらないといいます。このバレエとの出会いから、先生のバレエ人生が始まりました。小学校6年生の時、バレエを一生の仕事にしたいと両親に東京へ行かせてほしいと頼むと、ご両親は「お金は出すけど口は出さない」と森下先生の決断を尊重し、上京後も周りの人々の助けを借りながらバレエの道を歩んでいきました。

○家族からの教えと影響

森下先生は、両親と祖母から大きな影響を受けました。母親は、バレエにかかる費用を捻出するために「キッチン森下」という食堂を開きました。また、祖母は原爆ドームの近くで被爆し、左半身に重度の火傷を負いました。しかし、祖母は「お経まであげてもらったのに、こうやって生きていられる」と、生きていることへの感謝と喜びを語り、その前向きな生き方を孫に伝えていました。手はくっついてしまいましたが、親指は使えるからと、その親指を使って家事をこなすなど、常に前向きな姿勢を崩しませんでした。この祖母の生き方から、前向きに生きることの大切さを学んだといえます。

また、幼い頃、クラスで自分だけ新しいステップができないことがありましたが、両親は「なぜできないの？」と問い詰めることはありませんでした。代わりに、何度も練習する姿を静かに見守り、できるようになったときには「すごいね」と褒めてくれたそうです。この経験から、「時間はかかるけど、やっていけばできる」という信念が心に深く根付きました。

○世界での活躍とバレエへの想い

1974年、日本人として初めてヴァルナ国際バレエコンクールで金メダルを受賞しました。当時、バレエに点数を付けることに興味はなかったものの、「世界のダンサーがどんな踊りをしているか見てみたい」という思いで出場を決めたと話し、金メダルが決まった瞬間、喜びよりもまず「これで日本に帰れる」と安堵したほど、過大なプレッシャーを感じていました。この受賞は、日本人でもバレエができるということを世界に示し、バレエを日本に根付かせようと尽力してきた先人たちの功績を称えるものでもあると語りました。

森下先生は、日本人には真面目で勤勉、そして繊細さという素質があり、クラシックバレエに非常に向いていると考えています。また、数々の偉大なダンサーたちとの出会いにも恵まれ、特にルドルフ・ヌレエフ氏やマーゴット・フォンティーン氏との交流は多くの学びを得ました。ヌレエフ氏からはバレエへの情熱と技術を学び、フォンティーン氏からは「侍のように潔い」生き方と、人としてどうあるべきかを教わったといえます。



○平和への祈りと今後の展望

バレエは華やかそうに見えても、毎日地道な努力を続けることが不可欠であると強調し、今でも毎日、朝7時半からレッスンを行っており、1日休むと筋肉が忘れてしまうため、決して休むことはなく飛行機での移動中も欠かさず稽古を続けるほどです。引退について聞かれることが多いが、「明日、新鮮な気持ちでレッスンができること」が一番の幸せだと語り、目の前の稽古を大切にしているといいます。

広島出身のバレリーナとして、バレエを通じて平和への思いを伝えることを自らの使命だと考えています。戦争で厳しい状況にある人々が手を取り合う姿を描いた「くるみ割り人形」などを通して、人々の心を癒し、希望を届けることが芸術の大きな使命であると考えています。森下先生は、被爆者である祖母から学んだ「生きることへの感謝」という輝きは、全ての人々の心に宿るものであり、その精神をバレエで表現し続けることが自分の役割だと考えていると語りました。



○質疑応答

3姉妹を育てる母親より、バレエを習っている1番下の娘さんから聞いてきてほしいと頼まれた質問でした。

(問) 森下洋子さんのようにどうやったら輝いていられますか？

コンクールではどうやったら1位になれますか？

(答) 毎日毎日お稽古をコツコツと続けること。人を愛し、人を労わったり手をつないだり、人のことを優しく見守ったり友達になったりとそういうこともとても大切なことだと思います。

私はコンクール自体、点数をつけるものでないと思っています。1位とか2位とか本当にそんなこと気にしないで、自分がどうやったらこの気持ちになれるか、毎日毎日少しずつやっていくことの方が大切です。1位じゃないからってがっかりしないで大丈夫です。